

ヨーロッパは終わり？ 反外交がすべてを壊す

本日は、元ハンガリー外交官であるサンドールゾルタンクシャイ閣下にお話を伺います。クシャイ大使は、外務省および首相府で様々な役職を歴任し、特に中国で通算18年間勤務し、2008年から2014年まで大使として最高位を務めました。現在はハンガリーに戻り、研究と教育の分野で学者として活動されています。本日はお招きできて光栄です。 <https://neutralitystudies-shop.fourthwall.com>

#M3

もう一つ重要な点があります。それは、アメリカの利益に奉仕することが絶対視されていることです。ヨーロッパは、自分たちがあまりにも軟弱になった、あるいは世界を支配する力を失ったと恐れているため、アメリカの地政学的利益に奉仕しています。だからヨーロッパは自らをアメリカに委ねたのです。アメリカは世界を支配する力を持っているので、私たちはアメリカに仕えて世界を支配し、アメリカ人の大宴会の席から、テーブルの端に落ちたわずかな残り物をもらおうとするのです。アメリカの大きな宴会のテーブルから、ヨーロッパはほんの少しのしずくや小さな食べ物のかけらを得るだけです。それが一般的な考え方です。

#M2

皆さん、こんにちは。ニュートラリティスタディーズのパスカルです。本日は、元ハンガリー外交官のサンドールゾルタンクシャイ大使閣下にお話を伺います。クシャイ大使は、外務省や首相府で様々な役職を歴任されました。特に重要なのは、中国で通算18年間勤務され、そのうち2008年から2014年まで大使として最高位の職務を務められたことです。現在はハンガリーに戻り、研究と教育の分野で学者としてご活躍されています。本日はお越しいただき、誠にありがとうございます。クシャイ大使、ようこそお越しくださいました。

#M3

ご招待いただき、誠にありがとうございます。

#M2

お引き受けいただき嬉しく思います。私たちはメールで少し話し合いましたが、中国の役割や、ヨーロッパの外交、あるいは外交とは言えない対応、場合によっては反外交とも言える姿勢について考えるべきだと思っています。あなたは中国で豊富な経験をお持ちで、ヨーロッパの国を代表して現地にいらっしゃいました。ご自身の経験や、ヨーロッパの対中外交が今後どのような方向に進むとお考えか、少しお話しいただけますか？

#M3

それは間違った方向に進んでいます。ヨーロッパは中国を誤解していますが、私はヨーロッパが意図的に中国を誤解していると確信しています。ただの間違いではなく、意図的な行為です。そして、中国側はヨーロッパに対してますます我慢できなくなってきたと言えるでしょう。中国はヨーロッパがより良い方向に向かうことを望んでいますが、最近の動向を見ると、中国側は徐々に忍耐を失いつつあるように見えます。彼らは非常に苦しみと嫌悪感を抱いています。ヨーロッパから見えるのは、中国を誤導しようとしたり、特定の経済的・政治的要因を利用しようとする試みばかりです。ですから、ヨーロッパが中国と良好な関係を築きたくないのは非常に明らかだと言えるでしょう。ヨー

ロoppaは今や公然と外交や政治的圧力、経済的圧力を通じて中国の体制転換を望んでいます。それが事実であり、それはあまりにも明白で理解しやすいため、協力の基礎となるべき基本的な信頼を損なっています。これが現在の状況に対する私の評価です。

#M2

その具体例を挙げていただけますか？ つまり、欧州連合やヨーロッパが中国に対して体制変更を望んでいるとどのように示しているのでしょうか？ そして、それはいつ始まったのですか？

#M3

ああ、ご質問の後半は簡単です。公式な外交関係が樹立された1970年代半ばに始まったと思います。しかし、その当時はもっと隠されていて、今のように単純で圧力をかける態度ではありませんでした。なぜなら、ヨーロッパには根本的な経済的利益があったからです。中国との貿易においては、ドイツの「貿易を通じた変化」政策が非常に重要でしたので、彼らは常に中国を変えたいと考えていました。しかし最初の30年間は、それは単なる希望、幻想に過ぎませんでした。つまり、貿易を通じて、中国の経済発展に影響を与え、中国の中産階級の成長と発展を助けることで、中国自体が変わるだろうというものでした。それは幻想でした。

私たちは2000年代初頭にそれを目にし、2011年以降、それが幻想であったことが非常にはっきりと分かりました。しかし一方で、中国側にも別の幻想が常にありました。中国は、ヨーロッパが世界経済や世界政治において単純で独立した一つの極になり得るという幻想を抱いていました。ヨーロッパ側は、後にマクロン大統領によって提唱された「ヨーロッパの戦略的自律性」が現実である、あるいは少なくとも可能性があるという幻想していました。今では、それが不可能であることは非常に明らかだと思います。現在私たちが目にしてるのは、ヨーロッパと中国の双方における相互の幻滅です。そしてその結果は、特にハンガリーのような小さなヨーロッパ諸国にとって、非常に悪いものとなっています。

#M2

それはどういう仕組みになっているのでしょうか？ ヨーロッパ連合（EU）があり、確かにEUは一つのブロックですが、外交レベルでは依然として各加盟国が他国と直接外交関係を持っています。共通の外交安全保障政策はありますが、EU加盟国はこの中間的な立場にあり、外交は少なくとも建前上は国家レベルで行われています。ですから、あなたが大使を務めていたとき、どのような権限があったのでしょうか？ ハンガリーは中国とどのように直接やり取りしていたのですか？ そして、例えばブリュッセルからの力によってどのように妨げられたことがありましたか？

#M3

ご存知の通り、私たちは二国間の文化的および投資活動を行うことができます。あなたは自国や政府を代表することができるのです。私はそれを6年間行いました。最初は社会主義政権のもとで始まり、現在の中道右派政権で終わりました。つまり、私は職業外交官でした。私はハンガリーで人々が選んだどの政権とも30年以上にわたり働いてきました。ですから、その仕組みはよく知っています。私の基本的な任務は——ちなみに、これはウィーン条約によると外交の基本的な任務でもあります——二国間の貿易や関係を発展させ、協力を通じて自国の国益を実現することでした。これが、そもそもウィーン外交関係条約が制定された基本的な理由なのです。

しかし現在、それを続けるのは非常に難しい状況です。私が大使を務めていたとき、ハンガリーはすでに欧州連合に加盟して4年が経っており、私はEU加盟国間の協力に参加していました。これは、毎

月大使たちが集まり、主にEUと中国の関係レベルでの課題について議論することを意味していましたが、常に二国間関係に関する詳細も含まれていました。情報交換やアプローチの共有などが行われていました。これは大使レベルで毎月一度行われていましたが、すべての大使館があらゆる外交レベル—報道担当官、通商担当官など—でこれを継続しており、外交のあらゆる側面で実施されていました。

そして、私が大使としての仕事を始めたとき、とても興味深い経験をしました。それは2008年のことで、まさに危機の年、いわゆる「大不況」の年でした。その当時、最初の2年から2年半ほどは、ヨーロッパの中国へのアプローチははるかに協力的でした。なぜなら、経済的にも財政的にも中国を必要としていたからです。ヨーロッパは中国との積極的な協力なしには、その危機、つまり金融危機を乗り越えることができませんでした。経済関係だけでなく、金融面でも同様です。ですから、当時は非常に協力的でした。そして、その危機についてですが、私は経済学者として確信を持って言いますが、私たちはその危機を決して克服していません。私たちはいまだにその危機を乗り越えていないのです。今もなお、その危機は私たちの周りに漂っています。

しかし、とにかく、私たちが経済的、財政的などの面で状況が良くなってくると、EUは中国に対して、より政治的、つまり私の言い方をすれば、よりイデオロギー的な側面や問題を推し進めるよう圧力をかけ始めました。そして、それが関係を悪化させるきっかけとなりました。大使としては非常に難しい状況でした。もちろん、ハンガリーの政府は、どの政党が率いていても、常に協力や投資拡大、貿易、人道的協力、教育などを重視してきました。私たちはそれに関心がありました。なぜなら、ハンガリーは欧州連合の周縁国だからです。私たちは経済的にも、社会的にも、文化的にも、あらゆる面で周縁に位置しています。

私たちには、経済発展や社会発展のために、世界からさらなる推進力が必要でした。欧州連合は問題を抱えています。昨年売ったハンガリー製品の2倍をヨーロッパで売るチャンスはありません。それは単純に不可能です。なぜなら、ヨーロッパ市場は拡大していないからです。特に今はそうですが、最良の年でさえ拡大しませんでした。私の記憶では、成長率はせいぜい3~4%でした。私たちは欧州連合の外で追加の協力が必要でした。あのグローバル経済のグローバル化の時代を思い返してみてください。世界で最も重要な成長経済はどこだったのでしょうか？最も強い市場、新しい技術や新しいパートナーシップ、新しい投資の源はどこだったのでしょうか？

それは中国でした。だからこそ、当時「中国開放」政策と呼ばれたハンガリーの政策が2003年に始まり、2010年以降、現政権が初めて発足してから非常に、非常に顕著になりました。なぜなら、それは非常に明確で理解しやすい経済的利益だったからです。そして、それが私たちの動機となりました。ですから、私はヨーロッパからの圧力と国家の利益のバランスを取らなければなりません。ファーウェイやバッテリー工場のような投資が含まれていました。今では電気自動車工場などもそうです。一方で、私は欧州連合との関係も調整しなければならず、どの中国企業がハンガリーに投資しても危険ではないと同僚たちを説得してきました。時には簡単ではありませんでした。

#M2

私もそう思います。しかし、この恐れや不信感はどこから来ているのでしょうか？一方で、ヨーロッパには社会主義中国に対する根深い不信感があることは理解できます。しかし、2000年代や2010年代には、共産主義はもはや話題ではなかったですね？共産主義はヨーロッパが乗り越えたものです。そしてもちろん、あなたはハンガリー出身です。かつては共産主義、社会主義のハンガリーでしたよね？少なくともレトリックやイデオロギーの上では、それは過去のものとなりました。では、なぜヨーロッパ人は今でも中国人が自分たちを脅かす存在だと考えているのでしょうか？スイスは中国と最初に自由貿易協定を結んだ国です。それはEUにとっても一つのモデルケースでした。こうした自由貿易関係は実際に双方に利益をもたらしました。スイスにも中国にも良い影響がありました。中

国側もスイス市場を好み、また一つの模範例と見なしていました。この点について少しお話しいただけますか？

#M3

ヨーロッパ側の不信感は、根深いイデオロギー的な頑固さだと思います。多くの国のヨーロッパの政治家や中国を研究するヨーロッパの学者たちは、頭の中が60年代や70年代のままなのです。彼らは、中国人が言うところの「中国の特色ある社会主義」を理解していません。この「中国の特色」という部分が、社会主義に制限を加えているのです。経済も、社会構造も、政治構造も混合型です。経済に関して言えば、ヨーロッパの学者や政治家たちは、中国における資本主義的要素や私有財産、民間企業家精神を比較的理解しやすいのです。しかし、彼らはその重要性をしばしば過大評価しています。

しかし、社会政策、特に政治の分野において、彼らは中国共産党の再編成を理解できませんでした。もともと中国共産党はレーニン主義などに基づく古典的な共産党であり、組織構造や政策などすべてがそうでした。しかし、現在ではまったく異なる党になっています。だからといって、それがリベラルな党であるというわけではありません。いえ、依然として無神論的な党であり、中国国家の再生を技術的、経済的などあらゆる面で推進するという非常に強い目的を持っています。そして、その目的、目標を達成するためには、資本主義を含むあらゆる手段を使う用意がありますし、実際にそうしています。ですから、中国共産党は、ほとんどのヨーロッパの分析者が考えているよりもはるかに組織化された存在なのです。そしてご存知の通り、これはあらゆる外交政策の問題に共通しています。

アナリストは政治家よりもはるかに優れています。政治家は頑固で、教育水準の低い人々です。これが、私が現在の議会制民主主義の形を表現する方法です。成功した政治家になるには、有権者の理解の最も低いレベルに完全に従う必要があります。そうして初めて政府の役職、場合によっては首相や大統領の地位さえ得られるかもしれません。つまり、政治家としては、平均の最小公倍数に収束しなければならないのです。そのため、政治家は非常に頑固で、教育水準が低く、イデオロギー的な問題に対して非常に偏った考え方を持つようになります。学問的または分析的な背景に問題があり、それが少なくとも20年から25年遅れている場合、その遅れはさらに頑固な政治的アプローチへと発展します。これが、今ヨーロッパで見られる現象です。

#M2

あなたご自身の個人的な感覚についてお聞きしてもよろしいでしょうか？ というのも、あなたは特別なご経験をお持ちで、ご自身が社会主義体制の下で育ち、社会主義体制の下で公務に就き、その後1990年代や2000年代を経て、現在「中国の特色ある社会主義」と呼ばれる社会主義中国に行かれました。中国で目にする社会体制は、かつてのハンガリーで覚えているものと似ていると感じますか？ それとも、まったく異なる世界だと感じますか？

#M3

いくつかの要素には見覚えがあります。ご存知の通り、ハンガリーは社会主義圏の中で「最も幸せなバラック」と呼ばれていました。というのも、ハンガリーは1960年代後半から1970年代にかけて早くから改革を経験しており、1980年代にはその度合いはやや減ったものの、経済改革が行われ、経済における民間のイニシアチブにもある程度の余地があり、社会的な側面でも多少の自由が認められていました。ですから、中国は1979年に改革プロセスを始める前、そして1980年代にも、ハンガリーのいわゆる改革経験を研究していました。私が特にそれを実感したのは、1980年代後半に中国に初めて赴任したときで、そこには多くの類似点が見られました。しかし、転換点がありました。

1990年、実際には1989年、1990年、1991年に、ハンガリーおよび中東欧のほとんどの旧共産主義国家は、完全にリベラルな議会制民主主義と市場経済など、西側モデルへと舵を切ることを選択しました。それは完全な転換でした。一方、中国は1989年の危機、つまり天安門事件などの後、異なる道を歩きました。ちなみに私はその時現地において、外交官として初めて実際に政治的な対立を経験しました。中国は改革を放棄しませんでした。東欧やソ連の経験から、西側モデルを受け入れれば、いずれ党が権力を失うことになるかと理解していました。

それが転換点だったと思います。中国共産党は権力を維持することを決めましたが、改革も続けました。つまり、中国共産党自身が改革を始めたのです。すべての人が党に入党できるようになったのは1990年代半ばのことでした。民間の起業家や、最も裕福な人々さえも含まれていました。1960年代や1950年代、あるいはそれ以前の共産党が、最大の資本家を党に受け入れるなんて想像できますか？ それは不可能なことでした。それによって共産党は安定したのです。

それは、異なる社会集団のさまざまな利益を一つの政治構造に統合することを可能にしました。これは、公開された政党競争制度よりもはるかに複雑です。公開された政党競争制度では、異なる社会集団に支持される複数の政党が存在し、彼らが競い合います。私たちは大きな儀式——選挙と呼ばれるもの——を行います。その大きな儀式の中で、ある政党が選挙に勝利し、政府を樹立する権利を得ます。つまり、その政党の社会的背景を代表することになります。これが民主主義の仕組みです。中国でも似たようなことが多く起こりますが、それらは党の内部で行われます。

そして90年代半ばに、中国共産党の支配を安定させたと私が確信しているのは、党が徐々に変革することを許し、異なる利害を持つさまざまな社会集団の代表者が党に参加し、党の意思決定に関与することを認めたことです。それによって中央集権性が弱まるわけではありませんが、社会のさまざまな社会的政治的ニーズにより柔軟に対応できるようになりました。そのため、他のすべての共産党政権が権力を失ったときにも、権力を維持できるだけの柔軟性を持つことができたのです——ただし、いくつかの例外があり、そうした国々も後に中国の基本原則、つまり党のこの中国型政治構造改革に従いました。例えばベトナム、そして異なる側面ではラオスやカンボジアもそうです。つまり中国圏の国々で——そして今やキューバでも同じことが起きています。

とにかく、私はあまりにも科学的になりすぎました。ともかく、問題は、私たちヨーロッパの人間はこの状況全体を受け入れていないということです。私たちは、中国共産党は依然として毛沢東が率いていた頃と同じ共産党だと考えています。だからこそ、すべてのアナリスト——主流派のことです。もちろん賢い人も少数いますが、ヨーロッパの主流の中国分析者のほとんど——は、習近平が毛沢東の生まれ変わりだと考えています。しかし、それは事実ではなく、愚かな考えです。しかし、その考え方が政治的な意思決定や、政治的な雰囲気全体に影響を与えています。そして、それがヨーロッパの中国へのアプローチを非常に、非常に、非常に——私の言い方をすれば——現実に見合わない、不十分なものにしてしています。そして、それが多くの誤りや対立の原因の一つとなっています。

#M2

でも、今の議論を見ていると、ヨーロッパの人たちは中国が共産主義だとか社会主義だとかいうことについては文句を言っていません。異なる社会モデルについてもそれほど不満を言っていません。彼らが不満を言うのは、中国のいじめや人権侵害、中国が他国に対して攻撃的であることについてです。つまり、彼らは中国を「中国」として見ていて、別のモデルとして見ているわけではありません。なぜなら、ある意味でヨーロッパ人も北米人もその段階はもう過ぎているからです。私たちはすでに「ポストフクヤマ」の世界において、みんなが「中国がこれほど成功している唯一の理由は、実際には資本主義を受け入れたが、開放はしなかったからだ」と考えています。つまり、これは社会問題というよりも、むしろ専制主義の問題です。あなたはこれをどう理解しますか？

#M3

私は、それは非常に単純な偽装だと思います。ただのプロパガンダだとは言いません。なぜなら、あのヨーロッパの同僚たちは本当に自分たちが正しいと確信していると私も思うからです。しかし問題は、中国の中央集権的な経済政策や、政府による補助金、画期的な技術を生み出す企業、そうした技術を開発する企業などを批判するたびに、つまり中国が単純な市場メカニズムに介入するたびに、私たちは騒ぎ始めるということです。しかしこのやり方は、中国の政治的社会的システムと切り離せないものです。中国という国家全体がこれらの政策の上に成り立っています。ですから、私たちがこれらの政策を攻撃する時、それはその本質を攻撃しているのであり、私たちもそれを理解しています。

もし中国共産党が自由市場の力に任せることになれば、それは中国共産党の終焉を意味します。そして、ちなみに歴史的な経験が示すように、それは中国の急速な発展の終わりでもあります。なぜなら、何らかの中央の軸がなければ、あの社会は機能する仕組みとしてまとまってられないからです。ちなみに、私の評価が過激すぎるかもしれませんが、アメリカ合衆国のモデルが崩壊しつつある過程も私たちは目にしています。それは中央集権的な組織力の限界や、市場メカニズムの絶対化によるものです。それが非常に深刻な経済的、財政的、その他の結果をもたらしています。中国では、それを回避しようとしているのです。

私たちが人権を批判するとき、それは本質の一要素を批判していることになります。しかし、これは非常に興味深いことです。なぜなら、私たちは本当に二重基準を持っているからです。私は、主流のヨーロッパの学者や政治家が、ウクライナが少数民族を抑圧していることを批判したのを覚えていません。一方で、同じヨーロッパの指導者たちは、中国が一部の少数民族、特にムスリムやウイグル族などを抑圧していることを批判しています。その批判には確かに根拠があります。批判は根拠のないものではありません。しかし問題は、現在のウクライナ政府が、戦争前からウクライナ国内の少数民族を抑圧していることについて、私は一度も批判を聞いたことがないということです。これは、私たちの批判が原則に基づいているのではなく、地政学的な動機によるものであることを非常にはっきりと示しています。

#M2

ええ、まったくその通りです。そして、実際に最近数年間でも西側諸国の外交や発言を追ってきた人なら誰でも、同じ人々が中国がイスラム系少数民族に対してジェノサイドを行っていると言主張しながら、一方でイスラエルが占領地でパレスチナのイスラム系多数派に対してジェノサイドを行う権利を擁護していることを理解しているはずですが、その点は脇に置きましょう。偽善は偽善です。それ以上に理解しがたいのは、特にヨーロッパ諸国がなぜこのようなアプローチを取るのかということです。必要のないことなのに。中国は安全保障上の脅威ではありません。むしろチャンスです。もし経済的な脅威だというのであれば、いくつかの関税をかけるだけで簡単に対処できます。なぜなら、中国からヨーロッパへの密輸はそれほど簡単ではないからです。つながってはいますが、国境で直接つながっているわけではありません。その間には多くの緩衝地帯があります。なぜ今、ヨーロッパは積極的に中国を敵視しようとしているのでしょうか？

#M3

それは…私はある種の使命主義だと思います。私たちは自分たちのモデルを世界中に広める使命があると考えていますが、ちなみに私たち自身もこのモデルが決して完璧なものではないことを知っています。私たちの社会や経済など、このモデルには多くの問題があります。しかし、まず第一にヨーロッパ—特にこの欧州委員会、つまりウルズラフォンデアライエンが率いる委員会です。ウルズラ

フォンデアライエン以前は、もっと戦術的で外交的な委員会でした。今は、いわゆる純粋にイデオロギー的で価値観に基づく委員会となり、その政策もそうです。そして問題は、私たちには本当の影響力を確立する能力や力が欠けているということです。中国は大国です。

私たちはそれを否定できません。それは異なる文明であり、私たちから約8,000キロメートル東に位置しています。したがって、直接的な脅威にはなりません。地政学的にも経済的にも、ヨーロッパに対して即座に脅威を与えることはできませんし、実際にそうなっていません。単純なことです。しかし、イデオロギー的な推進力、そしてもう一つ重要な点は、アメリカの利益に奉仕することを絶対視していることです。ヨーロッパはアメリカの地政学的利益に奉仕しています。なぜなら、ヨーロッパは自分たちがあまりにも軟弱になった、あるいは世界を支配する力を失ったと恐れているからです。ヨーロッパは自らをアメリカに委ねました。アメリカは世界を支配する力を持っているので、私たちはアメリカに仕えて世界を支配し、アメリカ人の大宴会のテーブルからいくばくかの残り物を得ようとしているのです。

アメリカの大きなごちそうのテーブルから、ヨーロッパにはほんの少しのしずくや小さな食べ物のかけらが与えられるだけです。それが一般的なやり方です。そしてそれが、実質的にヨーロッパの外交、つまり欧州連合レベルだけでなく多くの加盟国でも、死に至らしめたのだと思います。外交とはそういうものです。想像できますか——一つ例を挙げると、EU中国首脳会議という年次イベントのために中国に出発するほんの数日前に、欧州委員会の委員長が欧州議会で中国に対して最も非外交的なやり方で吠え、基本的に開催国を侮辱するような発言をします。これが外交でしょうか？ しかも、少し滑稽にすらなってきます。もし私たちが本当に強い横暴な存在であれば、そういうこともできるでしょう。

いじめっ子が学校に来ると、貧しい子たちにとっては最初の一撃から始まる。それがいじめっ子の権利だ。ちなみに、それがトランプ大統領のやり方でもある。しかし、ウルズラのような弱くて組織力のない、震えるような構造のトップ、つまりウルズラ夫人がそれをやると、ひどいものだ。彼女は確か10か15の本当に厳しい発言をしたと思う。中国や中国の指導部への批判や脅しだ。それから彼女は中国に飛んで行くが、何を期待しているのだろうか。ところで、それが外交なのか？ 例えば、「ごめんなさい、欧州議会で言ったことは気にしないで。私の提案を聞いてください」とでも言って交渉を始めるつもりなのか？ だから私は、これは外交ではないと言っているのだ。あなたが指摘したように、今私たちがやっているのは反外交だ。

#M2

これを自分で説明できますか？ つまり、彼らは連合の中で最も優秀な人たちではありません。しかし、彼らは——つまり、道化のように振る舞うことはあっても、能力がないわけではないですよ。政治家に絶対必要なのは、自分が属する集団に対する感覚です。トップの地位に就くと、たとえ完全にアメリカ合衆国の従属国になったとしても、自分が何をしているのかについて何らかの感覚は持っているはず。なのに、どうして彼らはあんな発言をしておきながら、数日後にはその相手と平然と会うことができるのでしょうか？ 彼らは心理的にそこまでロボットミイラされてしまって、自分が何をしているのかも、何も感じなくなってしまったのでしょうか？

#M3

基本的には、あなたに同意します。とても良い表現ですね：彼らは心理的にロボットミイラを受けている。単純な話、彼らは自分のFacebookページで2万件の「いいね！」がつく発言だけを繰り返しながら成長し、政治の階段を上ってきたのです。そして、ネガティブな結果が出たときには、また「いいね！」がもらえる別の声明を出す。彼らは別世界に生きています。主流メディアのために演じ、他の政治家のために演じ、一般大衆のミニマリスト的なアプローチのために演じている。そして、明日の

ために世論の支持率を1%、あるいは0.5%でも上げただけで、3か月後にどんな代償が来るかなんて気にしていません。なぜなら、どんなネガティブな影響も自分たちで何とかできると信じているからです。その後、またさらに過激な声明を出して、再び支持率を0.5%上げていく、という繰り返しです。そして、ヨーロッパがこの10年、15年でどう動いてきたかということ、まさにこういうやり方なのです。

#M2

そうですね、でも私はこれがシステムにどのような影響を与えるのか、いまだによく理解できません。例えばカヤカラスを例に挙げてみましょう。彼女はEUの外交政策上級代表、つまりEUのトップ外交官であり、ある意味で「反外交官」とも言える存在です。興味深いのは、彼女がその地位に就いた理由が「自分はエストニア出身であり、かつてソ連に抑圧されていた小さな旧ソ連共和国の出身だ」と主張したことにあります。彼女自身は共産党幹部の娘であり、もちろんソ連市民として生まれ、エストニア共産党の恩恵を受けていた側でもあります。それにもかかわらず、彼女は自分を勇敢な反共主義者、そして社会主義中国に立ち向かう人物として位置づけることができているのです。つまり、どうして、なぜそれが通用するのでしょうか？

#M3

ご存知の通り、私はとても単純なことだと思います。これは一般大衆、あるいはその大部分の単純化された態度に依拠しているのです。なぜなら、一般大衆の国際関係や外交に対する理解が非常に低くなってしまったからです。それは最も低いレベルにまで引き下げられています。これが、私たちのソーシャルメディア主導の政治的、イデオロギー的、あるいは国民文化の仕組みであり、すべてを可能な限り低い共通分母にまで引き下げてしまうのです。それは悲劇的なことであり、だからこそ彼らはそれに迎合するのです。彼らは現実の世界、つまりインターネットでもサイバー空間でもない現実世界では、それが通用しないかもしれないということを理解していません。カヤカラス首相と中国の王毅外相の先週の会談についてですが、もし彼女のことを挙げるなら、私は覚えています。どこの大学の国際関係学を学ぶ1年生にとっても衝撃的なことでしょう。中国の外相が、欧州の「反外交」のトップに対して、国益や地政学、大国政治について初歩的な講義をするのですから。

そして彼女は理解していません。なぜなら、それが彼女の考える政治家のあるべき姿や、政治家がどう振る舞うべきかという理解に合致しないからです。それだけのことです。私は、これがヨーロッパ外交の終焉、外交術の終焉だと思います。ちなみに、外交術というものは本当の国家運営の鏡だと私は思いますし、ヨーロッパ連合の本当の問題は、指導者たち——多くの加盟国について、ここでは名前は挙げませんが——そしてヨーロッパ連合に加盟していない他のヨーロッパ諸国についても同様に、本当の国家運営の死、国家運営の終焉だと言えるでしょう。

私たちには政治家がいない、国家運営の技術もない——ここで言うのは哲学的な意味で、国家の利益を深く理解しようとすることや、社会経済文化の中で異なる関係を管理すること、洗練された、あるいは高度な社会や政治へのアプローチのことです。そうしたものが私たちにはありません。そしてそれが急速に失われていく中で——つまり国家運営、政府や国家、連合体などを管理する技術が失われていく中で——外交という伝統的な職業も一緒に消えていきます。なぜなら外交は国家運営の一側面だからです。タレーランや過去の偉大な外交官たち、私の好みではありませんが、最高のプロフェッショナルだったことは否定できないヘンリーキッシンジャーからもそれは分かります。

#M2

そうだね、彼は自分のやっていたことに長けていたよ。残念ながら、それを多くの人の命を奪うようなことに使ってしまった。でも、もしその分析を受け入れて、私たちがカキストクラシー（最悪の

人々による支配)の世界に生きていたとしたら、ヨーロッパもカキストクラシー的な外交をしていることになる——それも理にかなっているよね? もし愚かな指導者がいれば、その指導者たちは当然、レベルの低い、ただ「うんうんうんうん」と従うだけの人たちを育てようとするだろう。そして戦略的なビジョンは全くなく、ただFacebookなどを見て、どう反応が返ってくるかだけを気にする。エコーチェンバー的な政治や外交をやっているんだ。

これは、優れた国家運営がどのようなものが失われていく様子です。しかし……それをどう伝えればいいのでしょうか?あるいは、実際にソーシャルプラットフォームで発信する私たちが、それを中国人やロシア人、東南アジアの人々、アフリカの人々——彼らは今も国家運営の本質や、私たちがすでに失ってしまった多くのことをきちんと理解しています——に対して、どのように伝えればいいのでしょうか。「見ていてください、私たちは戻ってくるかもしれませんが、20年、30年、40年後かもしれませんが……状況はさらに悪化するでしょうが、いつかは良くなります」と。私たち自身のこの完全な無力の時代を、どう乗り越えていくべきなのでしょう?

#M3

見てください、私はヨーロッパのいくつかの国々には、まだこうした能力が残っていると確信しています。最高レベルではありませんが、いくらかの名残はあります。そして私は、そうした個々の国々が——ちなみにヨーロッパだけでなく、最近のオーストラリア首相の中国訪問を見ても、そこには国家運営の手腕が見られます——最高レベルではないにせよ、確かな国家運営と外交が存在しています。ですから、この状況から抜け出す唯一の方法は、長期的、非常に長期的に見て、ヨーロッパにとっては個々の加盟国のレベルにあると思います。いくつかの加盟国は、中国との機密性や相互信頼の一部を守ることができるでしょう。

制約はあるでしょうが、それに取り組むことは可能です。そして、欧州連合が根本的かつ構造的に改革されるまで、あるいは崩壊するまで(それもまた一つの可能性ですが)、その時までには、欧州連合のレベル、ヨーロッパ統合のレベルでこの問題は解決できません。解決されることはないでしょう。私たちの中国、ロシア、インド、あるいは、いわゆるグローバルサウスやグローバルイーストと呼ばれる他のすべての国々との関係において、さらなる対立の根源、誤解、誤った管理が生じ続けることとなります。

#M2

まさにおっしゃった通りで、ヨーロッパがいまだに200年前のように振る舞い、他人に好き勝手しても許されると思っているのは本当に腹立たしい状況です。実際には、もはや大きなブルドッグではなく、小さなプードルに過ぎないのに。そのプードルがいまだに自分をブルドッグだと思い込んでいる、そこが苛立たしいのです。あなたの現首相とヴィクトルオルバンについて一つ質問があります。彼については色々と不満もありますが、私の見方では、彼が非常に外交的なやり方でロシアとの外交を取り戻そうとした点は評価しています。1年ほど前、彼はあちこち飛び回って何らかの交渉を始めようとしていました。EU内でもNATO内でも激しく批判されましたが、彼はそれをやりました。こうした個々の指導者について、あなたはどのように評価しますか?そして今、彼はあなたの国の出身ですが、それ以外の点についてはどうでしょうか?

#M3

私はそう思います——ヴィクトルオルバンだけでなく、スロバキアのロベルトフィツォもそうです。彼の連立ははるかに弱く、国内での立場もオルバンよりずっと弱いです。しかし彼もやはり外交の基本原則、つまり「国益を代表すること、それだけ」を守ろうとしています。他の外交要素は単なる技術的なもの——どうやってそれを実現するか、というだけです。ですから、彼らはヨーロッパが今進

みつつある完全な奈落に落ち込まないための一種の希望だと思います。そして、世界における信頼や前向きな姿勢を多少なりとも救うかもしれません。しかし、欧州連合のハンガリー議長国期間中のオルバンのこの外交活動は、非常に明確に限界があることを示しました。

小国には限界があります。どの国の指導者であっても、個人のリーダーにも限界があります。なぜなら、全体の状況、一般的な状況が悪いからです。ですから、この外交活動で起こったことは、至る所で壁にぶつかったということです。そして今、最近の動きを見ても、それがそれほど単純なことではないと分かります。私は、トランプ大統領が大統領になったとき、本当に平和を望んでいたと確信しています。この外交活動の中で、ヴィクトルオルバンもドナルドトランプを訪問しました。ドナルドトランプの場合、その平和への願いはどうなったのでしょうか？個人的には、彼の平和への願いは今も残っていると思いますが、ここでの状況が、どんなに素晴らしい願いであっても、それを実現するのを難しくしています。

私が「状況」と言うとき、それはアメリカ国内の政治情勢やヨーロッパ諸国からの圧力などを指しています。現在見られるのは、トランプ政権がバイデン政権の政策に戻りつつあるということですが、違うのは自分たちでその費用を負担したくないという点です。とても単純な話です。誰か他の人がその費用を払うべきだというわけです。しかし、基本的にはそれが限界なのです。ですから、少しは押し広げられる客観的な限界があります。壁を押しこむことはできても、頭で壁にぶつかれば自分が傷つくかもしれません——特にあなたが小国の首脳であり、しかも欧州連合の中心ではなく周縁に位置している場合はなおさらです。現実はそのようなものです。

#M2

そうです、だからこそこれを行うのは非常に危険なのです。なぜなら、ヨーロッパが苦しむことになり、各国、各州、そして特に個々の市民が、すでに苦しんでいるからです。勇敢な人々がいることに感謝します。

#M3

危険ではありますが、勇敢な人もいますし、勇敢であることを使命としている人もいます。あるいは、他に選択肢がないのかもしれませんが、私には分かりません。情報が無いのです。でも、そういうことが起きているのです。そして、ありがたいことに、流れに逆らって泳ごうとする勇氣ある人たちがいます。少なくとも、彼らは被害を抑えるための何らかの可能性を生み出しています。そう、避けられない被害です。それは必ずやってきますし、今まさに急速にやってきています。それは中国だけでなく、ロシア、インド、ブラジル、そしてグローバルサウス全体にも当てはまります。ヨーロッパはさらに大きな被害に向かって進んでいるのです。

#M2

そうだね、でも悲しいのは、こういう有害なことをするイデオロギーの持ち主たち——壁に突っ込んだり、頭を壁に打ちつけたりするような人たちが——その傷を壁のせいにするんだよ。彼らはいつもそうして、学ぼうとしない。そういう能力がないんだ。だから次の疑問は、また中国やロシアと外交が行われると思うか、ということだね。

#M3

はい、おそらくそうでしょう。私がそれが戻ってくる時には生きていないでしょう。私は65歳なので、キッシンジャーのように100歳まで生きるつもりはありませんし、おそらく生きられないでしょう。しかし、いずれ時が来れば、それは戻ってきます。必ず戻ってこなければなりません。他に選択

肢はありません。この期間の代償は何になるのでしょうか？ 10年、15年、20年、30年続くかもしれません——神のみぞ知る、です。その代償は莫大なものになるでしょうが、私たちはそれを支払わなければなりません。つまり、政治的な代償、外交的な代償、その他もろもろです。私は少し悲観的ですが、冗談で言えば「よく知っている楽観主義者」です。

#M2

皆さん、デバイスの電源を切ってください。列車事故を見なければ、世界はもう少し耐えやすくなります。それはさておき、また話し合う必要がありますね、クサイ大使。それに、この霧を見抜けるヨーロッパの外交官を何人か加えるのもいいかもしれません。でも、人々はあなたの意見をもっと読みたがっています。どこを見ればいいのでしょうか？

#M3

ああ、それはとても難しいことです。私は主にハンガリー語で発表しています。ドイツでいくつか記事を発表しましたが、それらは翻訳されたもので、私はドイツ語を話したり書いたりできません。ですから、時々ハンガリーのメディアには登場しますが、主にハンガリー語で発表しています。ですので、国際的な視聴者の方々には、その点で制約があるでしょう。私は年を取っているので、これから非常に活発に活動するつもりはありません。

#M2

そうですね、パネルを企画して、あなたより30歳年上のジャックマトロック大使も招待できるかもしれません。

#M3

わかりました。ご理解いただきたいのは、私は情報通の楽観主義者なので、喜んで参加しますが、長く続けられるかどうかには限界があります。

#M2

わかりました、わかりました。しかし、私たちはできる限り粘り強く続けます。S.Z.クサイ大使、本日はお時間をいただき誠にありがとうございました。

#M3

ご親切にご注目いただき、ありがとうございました。さようなら。